

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

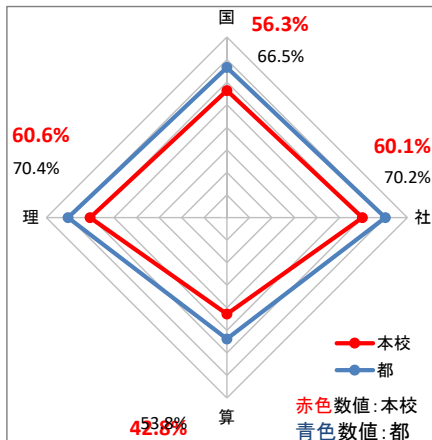
大杉東小学校

国語	教科の観点					読み解く力					全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	93.3%	81.7%	39.8%	74.6%	55.2%	65.9%	73.1%	69.3%	66.9%	69.8%	66.5%
本校	91.8%	70.1%	22.4%	71.6%	39.2%	54.6%	68.7%	61.2%	67.2%	65.7%	56.3%
都との差	-1.5	-11.6	-17.4	-3.0	-16.0	-11.3	-4.4	-8.1	0.3	-4.1	-10.2

社会	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	87.3%	72.6%	78.3%	62.0%	74.2%	72.0%	53.3%	52.9%	59.4%	70.2%
本校	86.6%	64.9%	68.4%	46.3%	65.2%	56.7%	40.3%	42.5%	46.5%	60.1%
都との差	-0.7	-7.7	-9.9	-15.7	-9.0	-15.3	-13.0	-10.4	-12.9	-10.1

算数	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	84.1%	40.7%	65.8%	54.6%	59.0%	53.5%	21.9%	21.1%	32.1%	53.8%
本校	79.1%	25.9%	55.7%	44.2%	48.1%	39.6%	12.7%	9.7%	20.6%	42.8%
都との差	-5.0	-14.8	-10.1	-10.4	-10.9	-13.9	-9.2	-11.4	-11.5	-11.0

理科	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	90.7%	61.8%	64.8%	79.1%	71.5%	72.2%	71.9%	59.1%	67.8%	70.4%
本校	88.8%	50.7%	50.2%	64.6%	60.0%	64.2%	65.7%	56.0%	61.9%	60.6%
都との差	-1.9	-11.1	-14.6	-14.5	-11.5	-8.0	-6.2	-3.1	-5.9	-9.8



《都との比較にみる本校の状況》

〈都平均との関係〉
すべての教科で都平均を10～11ポイント下回る結果となった。特に算数においては、都平均から11ポイント下回っている。関心・意欲・態度の領域では、他の領域に比べ、都平均からの乖離が小さく、4教科平均2.3ポイント下回る結果となっている。

〈各教科の結果〉

- ・国語は、主語・述語の関係や漢字を正確に書くなど言語の知識・理解の定着が不十分であるとともに、書く能力に課題が見られた。
- ・社会は、都道府県の名称や位置、東京都23区内での江戸川区の位置など社会的事象についての知識が不十分である。また、地図や表、文章などの複数の資料を読み取り、関連付けて考える力が不足している。
- ・算数は、既習事項を活用し、段階的に問題解決しなければならない課題に対して低い正答率を示した。また、基本的な四則計算の技能にも課題が残る結果となっている。
- ・理科は、実験や観察に使う器具の使い方についての理解が十分ではない。実験結果を基に問題に照らし合わせて考察できるかをみる問題では、低い正答率となった。

《授業改善のポイント》

- 基礎基本の定着を図る。
- ・主語・述語の関係や都道府県の名称など、知識・理解に関する事項については、特設的に指導しつつ、他教科の学習の中でも常に意識させ、繰り返し指導する。
- 問題解決的な学習の充実を図る。
- ・児童自ら学習課題を設定する。
- ・学習のめあてを児童一人一人が把握し、課題に取り組む。
- 話し合い活動の充実を図る。
- ・「主語・述語で話す」「話している人を見て聞く」など、話し合いの基本を徹底し、児童同士で意見の交流を深める活動を充実させる。
- ・基本の話型など、児童の言語環境を充実させる。
- 児童の関心・意欲を高めていく授業改善に取り組む。
- ・算数…繰り返し問題に取り組みさせることで、児童にできる喜びを味わわせていく。
- ・理科…体験、実験活動を大切にすることで、児童が新しい事象と出会い、事象への興味・関心を高めていく。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・宿題をはじめとする、家庭学習を計画的に行う。また、家庭学習週間では、児童の学習状況を保護者と共有し、学習支援の充実を図る。
- ・言語活動の充実のために、語彙力の向上が必要と感じる。そのことから、家庭において、読書週間中はもちろん、日々の家庭学習でも読書の推進を呼びかけていく。